



念仏者の言葉

無常だからこそ

今日一日がありがたい



仏教の代表的な教えに「諸行無常しよぎやうむじやう」があります。これはこの世の一切は一瞬たりとも同じものではなく、常に移り変わり続けているということです。この「諸行無常しよぎやうむじやう」という言葉は恐らく多くの方がご存じではないかと思えます。しかしこの事を本当に自覚しながら生活している方は非常に少ないのではないかと思います。「無常むじやう」ですので「常じやう」という事は「無」いのです。ということは時間や時だけではなく、今の生活や人間関係、自分の肉体や精神などの、ありとあらゆる全てのものが一瞬一瞬変わり続けていき、最後には消滅していきます。私たちが普段大切に行っているものも、常に移り変わりやがて消滅していきます。しかし私たちはこれらの事を頭では理解していますが、この心が本当にそれを良しとしていないのです。私が納得しようがしまいが、真実まじつは存在しています。だから私たちは大切にしていることが終わりに向かっていると感じると、虚しくむな感じることがないのだと思います。夕日を見て寂しくさび感じることが同じではないでしょうか。このいのちや家庭、生きがいなども移り変わりやがて消滅します。無常の風の前では確かなものはありません。絶対に逃れることができない真実を通して、私たちは何を本当に大切にすべきであるか、問われているように思います。

誌上法話「帰命」



浄土真宗の門徒であれば誰でも聞いたことのあるフレーズと言えば「きみようむりようじゆによらい」という正信偈の最初の言葉ではないでしょうか。誰もが口ずさんだことがあります。が、意味がよくわからずに唱えているという人が多いのではないのでしょうか。正信偈はこのフレーズに全てが集約されているとも言われます。「無量寿如来」とは阿弥陀如来の事です。これはインドの言葉でもともと「アミターユス」という言葉があり、私たちの思いを超えた無限のはたらきという意味です。つまり真理のことであり、簡単に言えば「本当の事」であり、「ありのまま」です。「帰命」という言葉は言い換えれば「帰依」という事になり、「帰命無量寿如来」というフレーズは「阿弥陀如来に帰依します」、言い換えれば「本当の事を拠り所とします」という事になります。しかし「本当の事」を拠り所（根拠）にしますという事は、私たちは日頃「本当ではない事」を拠り所（根拠）にして生きていくという事が前提になります。では私たちは日頃何を拠り所（根拠）にしているのでしょうか。

ある先生は「私たちは常に人情（自分の思い）を拠り所（根拠）にしている」とおっしゃっています。つまり何をすることも何を考えるにも自分の思いという事が基準にあります。しかし現実

の世界ではその思いというものが、まったく間に合わないという事に薄々皆さん気付いているのではないのでしょうか。「生きがいを持って健康で長生きを」と願っていても、その生きがいも続かず、健康も続きません。人間関係にしても決して思い通りになりません。つまり人生は私たちの願ったように都合よくはなりません。全てはご縁次第であり、私たちはご縁次第でどのような境遇にも投げ出されてしまいます。私たちの思いとは別に、事実が事実として存在します。実は良い悪い等の私の思い（人情）には何の根拠もないのだと知らされます。結局「自分の思いに叶うか」という事が基準であれば人生における全ての事実をありのままに見ていく事が出来ずに、思いに振り回されて一喜一憂を繰り返します。そこが人生における苦しみだと言われます。それが私たちの生き様ですので、そんな私たちに「帰命せよ」、つまり「本当の願いに帰りなさい」「無限のはたらきを根拠としなさい」という呼びかけが「帰命」です。「正信偈」では「帰命無量」から始まり、「弥陀成仏のこのかたは」と始まる「和讃」では、その結びの句がことごとく「〜に帰命せよ」で終わっているように、私たちは終始「帰りなさい」と呼びかけられている存在です。その呼びかけに領き、良し悪しを超えて思い切りよく因縁に身を任せていく

道に立っていくという私たちの宣言が、正信偈の冒頭にある「帰命無量寿如来」です。

お寺の子ども会



昨年出来なかった、お寺の夏休み子ども会を開催しました。コロナ禍という事もあり、少なめの約十名の子どもたちがお寺に集い、「正信偈」のおつとめや、法話を聞いて、工作などを行いました。大きな声を出して境内を走り回る子どもたちの姿を見ると、ついこちらも元気になります。感染予防の為に恒例の流しそうめんは出来ませんでした。感染予防の為に恒例が出来て、夏休みの楽しい思い出になったようです。

報恩講・御正忌のご案内



今年も報恩講や御正忌の季節になりました。新型コロナウイルスが流行していますが、感染防止対策を行いながら勤修いたします。昨年同様にお齋(食事)はお出しせず、午前だけの勤修とさせていただきます。

●報恩講

午前十時〜(お勤め・法話)
法話は当寺の副住職が行います。

十月十七日(日)

●親鸞聖人御正忌

午前九時半〜(お勤め・法話)
法話は住職による左記「黒部奇譚」の講演を再演します。

十一月二十八日(日)

特別展のご案内

当寺からも出展している黒部市市政施行十五周年記念特別展です。住職による講演会も予定していますので、是非お越しください。



●黒部奇譚 現在〜十一月二十三日まで

会場 うなづき友学館
・特別展講演会「三本柿について」辻祐岳(住職)
※事前申し込みが必要です。
十一月十三日(土) 午後一時半〜三時

坊守日記



七月に祠堂経会・門徒物故者追悼法要を行いました。祠堂経会とはこれまでに亡くなられたご門徒さんの法名をお飾りし、讃嘆供養を行っていく仏事です。御堂に飾られた法名軸には約六百名の門徒の方々の法名が記されており、その数には圧倒されます。また場所の都合で掛ける事の出来ないそれ以前の方々を合わせれば、千名を超える方々の法名をお寺でお預かりしています。お参りされた方々の中には、自分の両親や祖父母などの法名を見つけられ、喜んで写真を撮っておられる方もいらっしゃいました。またお世話になった方々のお名前を見つけて、懐かしく感じてもらっていました。改めていのちの繋がりの歴史を感じましたし、お寺とご門徒との繋がりの歴史というものを深く実感しました。ご縁あつてお寺に嫁ぎ早十数年が経ちました。その間、多くの門徒さんに本当に良くしていただき、そんな方々が多く亡くなっていかれました。様々な繋がりとかが、希薄になりつつある現代ですが、改めてこの歴代の法名軸を見る事で深い感謝の思いと、ご門徒さんとの繋がりを更にこれからも大切にしていきたいと心から思いました。



約600名の門徒法名軸

編集後記



先日新型コロナウイルスのワクチン接種を無事に二回終えることが出来ました。今回は副住職と若坊守が接種しましたので、既に接種を終えている住職、坊守を合わせてお寺に住む者のうち、ワクチン接種の対象年齢外である十歳の娘以外は全員接種を終えました。私は特に発熱することもなく、これといった副反応もありませんでした。ワクチン接種を終えたからと言って今後特に羽目を外すような事をするつもりはありませんが、気分的に多少の安心感があります。首都圏ではまだまだワクチンの接種が進んでいないようですが、富山県においては接種を希望する人に対しては近々ほぼ打ち終わる様子です。この一年半の間、非常に閉塞感に包まれた日々が続いていますので、このワクチン接種を契機として社会全体が少しでも明るくなっていく事を願うばかりです。



派大谷 眞宗
跡聖人 親鸞
の寺 本柿

辻徳法寺

〒938-0031

黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokujoji.net>

@temple_english_tokuhoji



次回の定例法座の予定は12月10日(金)13時半～です
10、11月は報恩講、御正忌の行事があるのでお休みします